

令和 6 年 8 月

逗子市教育委員会定例会

令和 6 年 8 月 7 日

逗子市教育委員会

会 議 録

令和6年8月7日逗子市教育委員会8月定例会を逗子市役所5階第3・第4会議室に招集した。

◎ 出席者

大河内	誠	教育長
星 山	麻 木	教育長職務代理者
若 林	順 子	教育委員
高 橋	康	教育委員
福 田	幸 男	教育委員

◎ 説明のため出席した者

佐 藤	多佳子	教育部長
福 井	昌 雄	教育部担当部長（子育て担当）・教育部次長（子育て担当）事務 取扱
雲 林	隆 継	教育部次長・教育総務課長事務取扱
小 野	憲	教育部参事（学校教育担当）・学校教育課長事務取扱
出 居	尚 樹	学校教育課担当課長（学事指導担当）
中 川	公 嗣	子育て支援課担当課長（青少年育成担当）・青少年育成係長・体 験学習施設長事務取扱

◎ 事務局職員出席者

松 下	亜紀子	教育総務課係長
奥 泉	勇 人	教育総務課主事

◎ 開会時刻 午後2時30分

◎ 閉会時刻 午後4時46分

◎ 会議録署名委員決定 若林委員、星山委員

○大河内教育長

会議に先立ち、傍聴の皆様をお願いいたします。傍聴に際しては、入口に掲示されております注意事項をお守りくださるようお願いいたします。なお、報道関係者以外の録音、写真撮影につきましては、許可しておりませんので、御了承ください。また、教育委員会の議決により、秘密会にすべき事項と思われる案件が出されたときには、退場いただく場合がありますので、御了承ください。

○大河内教育長

定足数に達しておりますので、ただいまから令和6年逗子市教育委員会8月定例会を開会いたします。

それでは会議に入ります。本日の会議日程はお手元に配付したとおりでございます。

会議規則により、本日の会議録署名委員は若林委員、星山委員をお願いいたします。

これより会議日程に入ります。

◎日程第1「6月定例会会議録の承認について」

○大河内教育長

日程第1「6月定例会会議録の承認について」を議題といたします。

委員にはお手元の会議録を御覧いただくようお願いいたします。

会議録について御異議ございませんか。

(全員異議なし)

御異議がないようですので、6月定例会会議録は承認いたします。

星山委員、若林委員は会議録に御署名ください。

◎日程第2「教育長報告事項について」

○大河内教育長

日程第2「教育長報告事項について」を議題といたします。

それでは、私のほうから報告させていただきます。前回の定例会から今日まで、教育長関連の会議はございませんでした。ただ、この間、伊香保の交流教室と昨日行われました学生議会がありましたので、そのことについて報告させていただきます。なお、私のほうから概要を説明させていただきまして、その後、直接児童・生徒への対応をしております子育て支援課、青少年育成担当、中川担当課長より補足を説明させていただきます。

それでは、1つ目ですね、伊香保交流教室、7月23日に逗子海岸で行われました。これは御存じのように45年前から始まっているものでございまして、明治の文豪であられた徳富蘆花さんのゆかりの縁ということで、当時の伊香保町と逗子市が姉妹都市提携を結びまして、交流が始まったところでございます。途中、平成合併等がありまして、伊香保町から渋川市に変わりましたが、これまでの交流事業を続けていきたいと思いますということで、途中コロナで中止もありましたけれども、45年も続いている交流事業を続けているところでございます。当日は海の家「利久」さんを休憩所としまして、お昼を入れて逗子海岸で楽しんでいただくわけですが、当日は逗子市内の小学生が8名で伊香保町の小学生が11名ということで、最初は緊張していたのですが、一番感心したのは担当をしてくださっているライフセーバーの方、この方がですね、小学校・中学校の先生方も少し見習ったほうがいいというか、子どもたちの気持ちの捉え方って、すごいんですね。会った瞬間にもう友達になるような感じで、本当に緊張している小学生の心をつかむというか、最後は温かい雰囲気になるのですよね。ですから、緊張していた伊香保町の子たちも、来た瞬間に明るくなりまして、本当にいい雰囲気できました。伊香保町の子どもたちは、海というのはなかなか経験していないので、ゴーグルをかけて海に入ろうとしているのです。去年、ウォーターパークの中でゴーグルを落とした子がたくさんいたものですから、なかなか海の中にゴーグルが入ってしまうと取りにくいので、逗子市内の子どもたちがゴーグルを外して一緒に行こうという形で、ウォーターパークで遊んでいました。逗子市は国際環境認定ブルーフラッグを取得、きれいな海ということで、安心・安全の海についての紹介もしながら一日過ごしたということで、大変充実した交流会だということを報告を受けております。

続きまして、令和3年度に始まった時は「子ども議会」だったのですが、昨年から「学生議会」という名称に変えまして、昨日は本市の議場を使いまして、学生議会がありました。市内3校の中学校から5名の生徒が参加をしまして、教育委員会への質問は全部で4つありました。学生の自転車トラブルの呼びかけ、2つ目は逗子市の定期テストの取組について、3つ目が今まで学生議会が出された質問や提案が政策に反映された事例はあったのかというような質問もありました。最後は学校体育館の冷房についての質問でございました。この4つが教育委員会への質問でしたけれども、市長にもそのほか質問がございまして、質問が終わった後に感想を述べるのですが、これは前もって打合せも何もなく、5人の子たちが議場で堂々と感想を述べるということを目の当たりにして、本当に立派な子どもたちだなと、感想を持ちました。5人ということで、人数は少ないのですが、この経験

を学校に戻って、来年は友達を連れて学生議会に参加したいという子どももいましたので、来年はもうちょっと人数が増えるかなと思っています。

それでは、担当だった中川担当課長のほうに補足をお願いしたいと思います。

○中川子育て支援課担当課長（青少年育成担当）

まず、7月23日に行われました伊香保町交流事業、夏休み子ども交流教室につきまして御報告いたします。

もう当日、雨が降らなかったということがありますので、絶好の交流教室日よりとでも言うのですかね、むしろ暑いぐらいの天候だったのかなと思っています。先ほど教育長からもありましたとおり、伊香保町から小学校6年生が11名、逗子からは8名ということで、交流を深める形になっております。

当日は、海岸にありますウォーターパークですとか、海の安全教室、先ほどお話ありましたとおり、国際ブルーフラッグ認証取得をしている関係もあって、海岸からごみが出るのではなくて、どこからごみは来るのでしょうかみたいな、そういうところの観点から、むしろ海岸でごみを拾うというよりは、まち中でごみを捨てるのをやめましょうねという、もともととしてはいけないのですが、そういったところの観点から海岸、自然環境をきれいにしていきたいというふうなところを、ライフセーバーですとか市の経済観光課から説明いただいて、一日有意義な交流教室ではあったのかなというふうに考えております。

最後、やはりわずか短い時間ではありましたが、名残り惜しそうに、何度も振り返りながら帰られた伊香保のお子さんがすごく感動的なシーンだったのかなというふうに思っております。今年もいい交流教室が開けて、私としてもほっとしているような状況です。

2点目に、昨日の学生議会ですね、こちらの方も前回の教育委員会の中で、今年の募集状況はどうなのでしょうかということで、わずか今、1名ですというお答えした後に、ぽんと伸びまして、最終的には5名の中学生の参加がありました。内訳を申し上げますと、沼間中学校の2年生が1名、逗子中学校の2年生が2名、久木中学校の1年生が2名の合計5名ということで、通常ですと1議員に対して質問1つということでやってきたのですが、昨年人数が非常に少なかったこともあって、1人2問質問を考えていただいて、議場の中で登壇して質問をし、2問に答弁をいただきながら、最後、その答弁に対して感想というか、また要望を市政のほうに対して伝えるというような形を本年度も同様にとりました。その中で、先ほど教育長から、教育委員会の部分に関してこんな質問がということでいただきましたけれども、市長部局の質問の中では、観光の観点から、例えば逗子インターからまち中を通った

海岸までの魅力づくりはどうしたらできますかですとか、さらに逗子海岸を盛り上げていくための取組について聞いてみたい。ボールが使えない公園が多いのはなぜか。総合病院をつくる予定について伺いたい。それと、夕方の防災無線についてというところで、ここは今、防災無線、定期的に時間で鳴らしているのですけれども、チャイムではなくて「逗子市歌」、本年度から逗子市の市制70周年記念事業なので、「逗子市歌」は流せませんか、市歌をもう少し周知したほうがいいのではないですかというような質問がありまして、そこは可能な限り前向きに検討していきたいというふうな答弁がございまして、なかなか本年度もいい質問が出て、いい答弁、行政側のほうもいい答弁ができたのではないかなというふうに私は思っております。

今後、同じような形で、今後子どもたちの意見を聞いていくという場面も、少なからず増えていこうと思いますので、こういった機会を捉えて、継続できればなというふうに考えております。以上です。

○大河内教育長

それでは、伊香保交流教室と学生議会についてですが、委員のほうから御質問ございますか。

○福田委員

学生議会について御報告いただきまして、ありがとうございます。無事に終わったというので、ほっとしていますけれども、こういう議会を開催して、そこで行われたやりとりというのが記録として残って、こんなことが実際に取り上げられましたよということが各学校にフィードバックしてもらえるとありがたいかな。それから、先ほどもちょっと話題になったように、議会で取り上げられたことが実際の例えば市政の中に反映するのかどうかというところ、すごく問題になるかと思えますし、関心事になると思えますので、そうした子どもたちからの提案というものがどういうふう to 受けとめられて、今後事業展開していくのかということも、ぜひ丁寧に追っていただきたいし、それをフィードバックしてもらいたいなと思えます。次回はもうちょっと多くの方が参加して、本当に皆さんが関心を持ってもらえるような学生議会にしてもらいたいというふうに思います。御苦労さまでした。

○中川子育て支援課担当課長（青少年育成担当）

御意見、ありがとうございます。今回やはり1人の学生議員の方から、学生議会について、過去、今回を含めて4回で、過去3回のところで実現できたことはないのですかという、まさにいい質問だなということで、私もちょっと感心したところもあったのですが、その中で、

やはり行政としてもともと考えていたものですか、検討はしていたものの、開始時期が未定だったものというのが、ある種そこで発言があったことによって、前倒しで、実は実現されたものもありますので、そこも踏まえて、やはりいい意見に対しては行政としても積極的に検討していくべきだろうというふうに思っておりますので、こちらについても継続的にフィードバックというか、フォローしていったら、どの程度反映できているとか、進捗状況というのは確認していくべきなのだろうなということは感じております。

○大河内教育長

私のほうで答えたのが、ビブリオバトルをやっていただきたいというのがあったので、昨年12月から、あともう一つは、キャッシュレス決済の市税の納付ですね。それについて少し早まったというような形で答えさせていただいたところです。

そのほか、委員の皆様からありますか。よろしいですか。

それでは、以上で教育長報告事項についてを終わります。

○中川子育て支援課担当課長（青少年育成担当）

教育長の報告とは別で申し訳ありません。今後の青少年育成係の予定としまして、今、逗子市内で逗子フリースクール等連絡協議会というものが発足しています。それは逗子市内にありますフリースクール、それに近いものの組織がいくつか集まりまして、協議会というのが先日結成されました。その中で、フリースクールとはこういったものなのか、フリースクールのハードルを下げるために、オープンフリースクールというものを今月の27日（火曜日）に10時からスマイルのほうで開催することになりました。主催のほうは協議会が行うのですが、その会場ということで、スマイルを提供することになりましたので、後ほど事務局のほうからチラシを配付させていただきますので、御覧いただければと思います。またお時間あるようでしたら、スマイルのほうにお越しいただければと思います。すみません、お時間いただきまして、ありがとうございます。

○大河内教育長

今の件で質問ありますか。

○星山委員

1つだけ。逗子も神奈川県もいろいろ検討することになると思うのですが、今のところフリースクールはどちらかというと保護者の方の負担も大きいかなというところで、これからいろいろな支援が進んでいくとなると、フリースクールとは何かという定義づけみたいなものというのがすごく問題になるかなと思うので、その辺りのところを協議会でぜひ御検討

いただいて、不公平があってもいけませんし、皆さん不安になられるかなと思うので、お願いしたいと思います。

○大河内教育長

よろしくお願いします。よろしいですか。それでは、教育長報告事項についてを終わります。

◎日程第3「議案第17号令和7年度使用小・中学校教科用図書の採択について」

○大河内教育長

日程第3「議案第17号令和7年度使用小・中学校教科用図書の採択について」を議題といたします。

事務局より説明をお願いします。

○出居学校教育課担当課長

日程第3、議案第17号令和7年度使用小・中学校教科用図書の採択について御説明いたします。

これは、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第13条及び第14条並びに同施行令第14条の規定によりまして、令和7年度に逗子市立小・中学校で使用する教科用図書につきまして決定していただくものです。

逗子市教科用図書採択方針につきましては、4月の定例教育委員会、4月17日に行われたものです。において決定していただき、5月10日には逗子市教科用図書採択検討委員会を設置いたしました。その後、5月30日に逗子市・三浦市・葉山町の2市1町合同調査研究委員会が設置され、検定済教科用図書についての調査研究が行われ、その調査研究結果をもとに7月24日の第2回逗子市教科用図書採択検討委員会において検討協議が行われました。本日の採択に当たっては、8月2日付文書で検討委員会委員長より教育委員会で報告された今年度の逗子市教科用図書採択検討委員会の報告も資料の一つとして参考にさせていただきながら御審議いただきますよう、よろしくお願いいたします。以上です。

○大河内教育長

本件について、御質疑、御意見はございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、各委員におかれましては、これまで検討委員会からの報告等を受けまして、調査研究を重ね、本日の審議に臨まれているかと思いますので、審議に当たっては皆様から御意見をいただきながら最終的に1社を採択したいと思います。なお、採択の方法につきまし

ては、挙手により賛意を表明することとし、多数をもって決定したいと思います。

お諮りいたします。採択の方法は、挙手により賛意を表明することとし、多数をもって採択を決定したいと思います。御異議ございませんでしょうか。

(全員異議なし)

御異議がないようですので、そのとおり進めさせていただきます。

では、初めに令和7年度より逗子市立中学校で使用する教科用図書について審議します。審議に先立ちまして、いくつか確認をさせていただきます。

第1に、教科書の採択に当たって最も尊重すべきものは、教育基本法と学習指導要領であること。

第2に、検定を通過した教科用図書については、どれも教育基本法及び学習指導要領を反映したものと捉え、全ての検定済教科用図書を採択の対象とすること。

第3に、採択検討委員会の所掌事務は、「逗子市教科用図書採択検討委員会の設置及び運営に関する規程」に定められているとおり、教育委員会が行う教科用図書の採択に係る基本的かつ必要な事項について検討協議し、その結果を教育委員会に報告することであること。並びに、採択検討委員会から提出された4つの資料、①2市1町合同調査研究委員会作成の教科用図書調査研究報告書、②2市1町合同調査研究委員会による調査研究結果、③教科書展示会及び各市立小学校での展示において閲覧された保護者・市民の方からの感想・意見。④採択検討委員会における絞り込み案です。これらは、採択の際の重要な参考資料とするものの、教育委員会における決定を左右するものではないこと。

第4に、採択された教科書を用いて実際に授業に当たる教員の意向は重視・尊重すること。並びに、教員は採択された教科書を用いて授業実践に創意工夫をし、児童・生徒の学力向上に資するものとする。

第5に、採択するに当たって本市教育委員会として重視するポイントを、①学習につまずきやすい生徒にも使いやすいもの、②学習した内容が日常生活の様々な場面に結びつきやすいもの、③学校行事や学校生活との関連が考慮されているもの、④本市の教育の重点方針と関連が深いものの以上4点とすること。

以上を確認いただけますでしょうか。

(「はい」 の声あり)

よろしいですか。何かございますか。よろしいですね。

特にないようですので、御確認いただけたものとして進めさせていただきます。

それでは、中学校の教科用図書の採択に入ります。最初に中学校「国語」についてですが、何か御意見はございませんでしょうか。よろしくお願いします。

○若林委員

私も見させていただいて、4社甲乙つけがたいというか、差がないというか、全て見させていただきました。やはり国語というと、国語の力とすると、全ての教科の基礎だと思えますし、話すこと、聞くこと、書くこと、読むこと、語彙を豊かにするとか読書活動の充実というところを考えながら見させていただいたつもりです。

三省堂さんと光村図書さんで迷ったような形になっているんですけど、三省堂さんは学びの道しるべとして、5つのステップがあって、目標から振り返りまでを主体的・対話的に深い学びができるのではないかという工夫とか、本編と資料編が2つあるような構成で、資料編もすごく充実していました。ページの左端に、小見出しというか、見てすぐめくったときに分かりやすいなというような工夫があると思ったことと、国語を社会生活に生かすという案内があったのが、とても広がるのかなというふうに思いました。読書の広場というコーナーでも、小さな図書館というところで、本をたくさん紹介されていました。

あと、光村さんも、まずは手にとって紙質というのですかね、使いやすさという感じがありましたし、色味だったり、写真とか図表のレイアウトとかもすごく子どもたち見やすいのではないかなという印象を受けたのと、初めに巻頭書きに学習の進め方、1年間の見通しとかが大変充実していて、最初の単元は小学校からのつながり、1年生なんですけど、接続を意識しているような内容だったり、中学生になったばかりの思いだったり載っているところもあったので、よかったなと思いました。こちらも資料編もとても充実していて、綴じ込みブックとかもついていたりして、言葉の広がりにつながるのではないかと思いますので、迷っていますけれども。そんな形です。光村さんと三省堂さん。

○大河内教育長

三省堂さんと光村さんで、ちょっと今、決めかねているところですね。

その他、各委員、いかがでしょうか。

○福田委員

今お話があったとおり、4社ともとてもすぐれたというか、魅力的な教科書を作っているなということを感じました。したがって、どこをとっても特に問題はないかと思いますけれども、一応優劣をつけなければいけないということになった場合に、私は光村を推したいと思っています。ある意味では総合力といいますか、教科書全体の出来が一番すぐれているの

かなと思いました。もともと教材が多様であるということで、話すこと、聞くこと、書くことを含めて、各領域にわたって目が配られている。それから、今出てきましたように、イラストとか写真というのは比較的よく使われているということと、それから、これからの教科書選定の中でも出てくるとは思いますけれども、やはり時代を反映して、ICTをどう活用するかとか、あるいは様々な二次元バーコードから情報を読み取ることができるかということに関して、これは各社とも実は織り込んでいるわけですが、光村でもそういうような工夫がなされてきているということで、今までの教科書プラス・アルファ、今後を見越してこういうICTの活用を、ある意味では重視した教科書になっているのではないかとということで、そこら辺を少し評価したいなというふうに思います。

あとは使い勝手のよさというのは、多分あると思いますので、教科書として、各社ほとんど差はないと言いながらも、一応差をつけるとしたら光村を推したいというふうに思っています。

○大河内教育長

そのほか。

○高橋委員

私も光村の教科書で。教科書の中ほどに紙の厚さやちょっと大きさを変えた、関連した資料というのが綴じ込んであって、教科書をぺらぺらとめくったりするときに、ぱっと引っかかるという感じで、すぐその資料のところにたどり着けるという工夫がほかにはなくて、非常に特徴的だなという感想を持ちました。以上です。

○大河内教育長

星山委員、いかがですか。

○星山委員

私は東京書籍がいいと思いました。私はもともと特別支援が専門なので、やはり全ての子どもに見やすく使いやすいという視点から、国語の専門性から言うと、どの他社の方のもすばらしいと思いましたけれども、意外と、今ここに全部並んでいるのですが、どんどんコンテンツが豊かになって、重くなって、すごくカラフルになっているのですが、これ、1日何時間もある授業全部子どもたち持って歩くことを考えたら、教科書の重さとかってあまりお作りになる方たち、考えているかよく分かりませんが、私は毎年重くなっているなという気がしていて、もちろん読み物なので、大事なものは入れていかなければいけないと思います。説明とか解説とか、すごく美しくなって、ページ数が上がっていますが、でも

教科書に本当に必要なものは何なのかなというのを考えてもいいかなという意味においては、ページ数が絞られていて、あと軽いというのも意外と大事な視点ではないかなと。重さがですね。というところで、でも大事なものを入れているという意味において、私はちょっと違う視点ですけど、東京書籍さんがバランスがいいのではないかなと思いました。以上です。

○大河内教育長

そのほか、付け足しとかございますか。よろしいですか。

今、御意見いただきましたけれども、その中で、これから決めていくのですけれども、今お話の中に、三省堂と東京書籍、それから光村図書が入っていたと思います。この3つで諮りしてよろしいでしょうか。

それでは、三省堂を採択するのが良いとお考えの方、挙手をお願いします。

東京書籍を採択するのが良いとお考えの方、お願いいたします。

光村図書を採択するのが良いとお考えの方、お願いいたします。

それでは、光村図書が3人、東京書籍が1人ということで、「国語」については光村図書を採択することで決定してよろしいでしょうか。

続きまして、「書写」に移りたいと思います。中学校「書写」につきまして、何か御意見はございませんでしょうか。

○高橋委員

光村図書さんを見させていただいた感想ですが、書写で、学んだことを生活の中で役立てる工夫をされていて、子どもたちも学んだことをどこでどう生かすかというつくりにもなっているというところが非常に印象的でした。以上です。

○大河内教育長

そうすると、どちらを。

○高橋委員

光村です。

○大河内教育長

光村さんですね。そのほかございますか。

○福田委員

光村と教育出版の2つを特に候補に挙げたいと思います。光村に関しては、国語の教科用図書として採用されたということのつながりも含めて、非常にかたく書写の内容について取り上げているのかなということで、様々な工夫も、動画も含めて取り入れられているという

ことから、使い勝手がいいのかなというふうに思います。

教育出版の書道というのは、実は4つある中の3つが光村のタイプなのですが、教育出版はちょっと違ったつくりになっているのですね。非常に生徒にとって、何か興味・関心を持てるような構成になっていて、今までのただ書くということから離れて、少し幅広く日常生活も含めて文字をどのように活用していくかということに関する定番になっているのかなということで、何か違うつくりの教科書の提案になっているということで、評価をしたいと思っています。恐らく、4つあった中で、どれをとるか、見かけで言うと多分この教育出版がしゃれた感じの構成になっているのかなということで、そこは評価したいと思います。

○大河内教育長

そのほかありますか。

今、社名が挙がっているのは、光村図書、それから教育出版、この2社挙がっていますが、そのほかありますか。それでは挙手をしてよろしいでしょうか。

それでは、教育出版を採択するのが良いとお考えの方、挙手をお願いします。

光村図書を採択するのが良いとお考えの方、お願いいたします。

光村図書を採択するのが良いとお考えの委員が4、ほかは0ということで、4対0ということで、「書写」につきましては光村図書を採択することよろしいでしょうか。

それでは、光村図書を採択することに決定いたしました。

続いて「社会（地理）」に移ります。中学校「社会（地理）」について、何か御意見ございませんでしょうか。よろしくお願いします。

○若林委員

地理なのですが、今本当にこういう異常気象で、酷暑とかになっていますけれども、世界的にもいろいろな問題が数多く課題があるというところで、子どもたちが地理を勉強しながら、SDGsもそうですけど、そういう知識を広げていくというのがいいのかなと思っておりまして、そういったポイントで見てもみましたけれども、帝国書院さんが、本当に大きく差がないのです。本当にどの会社も。なのですが、まず、見開きで、SDGsということをしごく丁寧に、イラストとか写真とかで世界中のことが載っていたり、振り返りという形が章ごとに設けられているので、この章で何を学んできたのかが分るとか、ページの下に小学校とか他教科との関わり、学習内容に関して、全部書いてあるので、今、自分が何をやっているのかが分かるのかなと思ったり、よく配慮されているなと思いました。最後の索引なのですが、索引が地名と事柄に分かれているというのも見やすかったなと、私が

見たときに思ったのもありました。異常気象とかを考えたときに、自然災害については、本当に多くの資料が帝国書院さんにはありまして、細かいところですけど、たまたまなんですね、これはしょうがないのですけれども、お隣の鎌倉市さんのハザードマップがあって、それを読み取り方とか、それは皆さん載っているのですけど、結構紙面を割いて、どういうふう to それを役立てるのかというようなことも載っていたので、全体のバランスで考えて帝国書院さんがいいなというふうに思ったところでございます。

○大河内教育長

そのほかありますか。

○高橋委員

私は東京書籍さんを推薦したいと思います。教科書をぱっと開いたときに、真ん中に文章があって、その周りにグラフとか写真とか配置になっていまして、非常にイメージが沸きやすい。文章でごちゃごちゃごちゃと書いてなくて、そういったものでイメージしやすいようなつくりになっているのかなと思いますし、またちょっと足りない情報については、二次元コード等で情報をまた補足できるようなつくりになっていて、非常にとっつきやすいといえばとっつきやすいような印象を受けました。以上です。

○大河内教育長

東京書籍ということでよろしいですか。

○高橋委員

東京書籍で、はい。

○大河内教育長

ほかの委員、いかがでしょうか。よろしいですか。

御意見ないようですので、今、帝国書院と東京書籍ということで御意見いただきました。それでは採択のほうに入りたいと思います。よろしいでしょうか。

それでは、帝国書院を採択するのが良いとお考えの方は挙手をお願いします。

東京書籍を採択するのが良いとお考えの方、お願いいたします。

それでは、「社会（地理）」につきましては、帝国書院が3名、東京書籍が1名ということで、帝国書院の地理を採択することに決定いたしました。

続きまして、「社会（歴史）」に移りたいと思います。何か御意見ございませんでしょうか。

○福田委員

歴史の分野に関しては、実際にはエントリーは9社なのですけれども、様々な観点から教科書として提案されてきている。いずれも検定を通っているわけですから、駄目だということにはならないわけですけれども、その中で、教科用の図書としてふさわしいものということとをかなり慎重に見させていただきました。帝国書院と、それから東京書籍を一応候補として挙げました。私のほうは、その中では帝国書院を第1候補として挙げたいと思います。

この帝国書院と東京書籍、違いは、1つはページ数が随分違うのですね。帝国書院が314あって、東京書籍が280。さっき教科書の重さとかいう話がちょっと出てきたのですけれども、結構こういう違いというのが出るものだなというふうに思いました。この違いが実は見た感じで言うと、例えば東京書籍のほうの方がやはり資料とか写真というのが豊富に取り上げられていて、見ていて楽しいといえますか、何かわくわくするような、そういう情報提供になっているのかな。これはある意味では余白に当たる部分をうまく利用して、生徒たちへの興味・関心をひきつけるような工夫につながっているのかなというふうに思いました。問いと学習課題を冒頭に明示して、世界の歴史、そして日本の歴史というものをうまく組み合わせながら時代を進めていくという構成になっています。

1つ特徴的だったのが、タイムトラベルという形で、各時代の変遷を表現するようなイラストがありまして、それぞれの時代の人々の暮らしがある程度イメージできるような、そういうイラストがあって、時代を経ていく中で、社会がこのように変わっていくのだなということがイメージできるというような工夫なりをしている。

それ以外にも、「歴史を探ろう」という中で、いろいろな話題を取り上げておりまして、琉球とアイヌ民族の暮らしとか、昆布ロードと北前船とか、ふだん見過ごしているような出来事、歴史の中ではすごく大事なことはたくさんあるわけですけれども、庶民の暮らしとか、あるいは人々のふだんの暮らしというものをうまくつなげていくような話題提供になっていました。

それから「未来に向けて」というのも、すごく私にとっては興味・関心を持つ項目で、過去の出来事が今どうつながってくるのか。例えばワクチンの接種の問題とか、江戸の上水道なんていうのも取り上げられていて、それが今だとどうなるのだろうか。ごみを利用した農業なんていうのも取り上げられていて、歴史というのは単なる出来事のつながりではなくて、それぞれがしっかりと現在に、そして未来に向かってつながっていくような、そういうような流れなのだということとをある程度想定させるような変遷になっておりました。そういう意味で、生徒にとって使いやすい、読みやすいものになっているのではないかということに

なりました。

もちろん東京書籍も非常に工夫した形で、歴史の見方や考え方をうまく提示して、各章で探究課題とか探究のステップを明示するような形で、教科書のつくりとしては非常にうまくできているのかなと思いましたけれども、これは生徒の立場からちょっと考えていって、帝国書院のほうがいいのではないかというふうに僕は思いました。

○大河内教育長

そのほか御意見ございますか。

○高橋委員

まず、東京書籍さんなのですが、先ほど地理と同じように、教科書のつくりがそういったレイアウトになっていまして、非常に見やすいなというところは感じました。

また、帝国書院さんについては、写真とか絵などが非常に豊富に使われていて、すごく見やすくまとめられているという印象を受けます。そういったところはやはり興味を持たせる工夫がなされているのかなというふうに感じまして、本当に先ほどお話あったとおり、甲乙つけがたいのですが、帝国書院さんを推薦したいと思います。以上です。

○大河内教育長

そのほかございますか。

○星山委員

私は、さっきもちょっと申し上げたのですが、特別支援が専門なので、意外と歴史をものすごくよく学びたい子ども、生徒というのもいて、結構そういう子どもたちにとっては本格的な教科書も魅力的ではないのかなというふうにも感じました。

特に捉え方が自分で好きな子はどんどん探究していけますので、多面的な見方ができるとか、それから自分で解決できるような提案があるというので、私、結構山川出版社のがいいなと思っていたのですが、でも、皆さんのお話とか聞いていて、いろいろな生徒さんがいらっしゃるので、その実態に合っていて、みんなが学びやすいというところ帝国書院なのかなというところで考えました。ちょっといろいろな観点があるので難しいところかなと思いますが、好きな子にとっては歴史というのは非常に学びが多い分野なので、いろいろな会社の方が取り組んでくださっているの、面白いなというふうに、工夫もすばらしいなというふうに思いました。

○大河内教育長

山川と帝国は、決めかねてないということですね。

○星山委員

はい、ちょっとそういうところです。

○大河内教育長

分かりました。そのほかありますか。

○福田委員

今の山川に関して言うと、内容的には質の高い教科書かと思います。これ、高校に入ってから、さらにはその先にいろいろ学ぶ機会があると思いますので、そこで利用されるほうがいいのかなと。それから、各社の教科書それぞれ観点というか、出発点もちょっと違うところがあるのですけれども、それぞれまた学ぶ機会、各これから成長していく中で、本当にそのときどきに学ぶ機会があると思いますので、そこら辺は別に配慮するわけではないので、ぜひいろいろな観点から歴史を学ぶということを知っていただけたらと思いますし、そこは学校のほうで伝えていければと思います。

○大河内教育長

それでは、今、御意見いただいた中で出てきた社名が、帝国書院、それから山川出版、あとは東京書籍、この3つだと思うのですが、そのほかありましたか。よろしいですか。それでは、東京書籍、山川、帝国書院、この3つから1つ選ぶという形で挙手をお願いしたいと思います。

まず初めに、中学校「社会（歴史）」、東京書籍を採択するのが良いとお考えの方、挙手をお願いします。

続いて、山川出版を採択するのが良いとお考えの方、お願いします。

帝国書院を採択するのが良いとお考えの方、お願いします。

それでは、帝国書院が4、ほかは0ということで、中学校「社会（歴史）」については、帝国書院を採択することに決定いたしました。

続いて、中学校「社会（公民）」に移ります。何か御意見ございませんでしょうか。

○高橋委員

私、東京書籍さんの、先ほどの地理とか歴史もそうなのですが、手前に図をということで、参考に配置しているので、すごく見やすく、あと文字と資料との関連づけもしやすいなという印象を受けました。実際に手に取って、子どもたちも扱いやすいようなつくりになっているのかなということを感じました。ということで、東京書籍さんを推薦したいと思います。以上です。

○大河内教育長

そのほか。よろしいですか。

○星山委員

公民は私も東京書籍がいいと思いました。すごく分かりやすく、デザインが使いやすいなという、生徒さんからの視点で一番いいかなと思いました。

○大河内教育長

そのほかございますか。よろしいですか。

御異議がないようであれば、採決をさせていただきます。東京書籍の名前しか挙がってこないのですが、ほかはないですね。

東京書籍を中学校「公民」として採択するのが良いとお考えの方、挙手をお願いします。

東京書籍4、他0ということで、中学校「公民」については東京書籍を採択することに決定いたします。

続いて、中学校「社会（地図）」に移りたいと思います。御意見をお願いいたします。いかがでしょうか。

○福田委員

東京書籍と、それから帝国書院なのですね、地図は。それもページ数がちょっと違って、東京書籍よりも帝国書院のほうが多いのですが。全体を通して見て、中身でそんなに違いがあるわけではないのですけれども、いろいろな情報提供の在り方といいますか、例えばイラストとか図表とかを考えていったときに、帝国書院の地図帳のほうが多さるかなと。ページ数が多いというだけではなくて、同じページの中で、実はいろいろな図を差し込んだりしながら、工夫をして生かしているという。例えばの例として、北海道の地図があるのですけれども、北海道の地図の海側の部分というのを東京書籍はそのままにしてあるのですけれども、そこは例えば帝国書院は十勝平野とか根釧台地の図なんて入れてあるのですね。そうすると、北海道の地域によって、同じ農業をしているにしても、随分違ったような風景が展開されるというような、そんなページがあるのですね。そういうふうにして、非常にうまくページを使いながら、そして多様な情報を提供しているという点、それから地形図なんかに関しても、単なる地形図を出すのか、そこに人や建物や歴史を配置するのかというようなこと、それから歴史的な出来事も、実は地図の中に織り込みながら説明を加えている、あるいは理解を深めている、そういう工夫をしているのが帝国書院なものですから、これは帝国書院のほうが一歩まさるかな。

ただ一方で、東京書籍の新しい試みとして、やはりさっきの I C Tを活用したり、二次元バーコードを活用して、外部に様々な情報を求めていくという提案は、魅力的であったと思います。これから地図帳もだんだん変わってくるのかなというふうに思いますけれども、今の段階で言うと、中学校の地図帳としては、帝国書院の地図帳を推したいというふうに思います。

○大河内教育長

分かりました。そのほかありますか。いかがですか。よろしいですか。

2社しかありませんので、今、福田委員のほうから丁寧に御説明いただきましたけれども、言い足りない部分がありましたらお願いします。よろしいですね。

それでは、中学校の「社会（地図）」について、帝国書院を採択するのが良いとお考えの方、挙手をお願いします。

それでは、帝国4、他0ということで、地図については全員一致で帝国書院を採択することに決定いたしました。

続いて数学に入ります。中学校「数学」について御意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

○若林委員

数学というと、小学校から中学校になると私はずっと急に難しくなるようなイメージがありまして、つまづいてしまうと苦手意識を持ったり、差がついてしまう科目なのかなというようなところがあると思います。

7社見まして、本当にどの会社のものも大差がないと思っていますし、ノートの使い方ともちゃんときちんと取り上げているので、本当に7社ともいいと思うのですが、啓林館さんは表現を説明しよう、話し合おう、まとめようというような流れがあって、話すこととか聞くとか、そういったことを対話的な学びとか、それを深めようというような工夫があるのかなと思いましたし、数学的な表現ですね、それを通して理解を深められるとか、そういったことなのかなというように感じました。全体的に写真とか身近なものを取り入れているような、日常生活の数字とかというのを取り入れているかなと思って、1年生なんかはやりやすいのかなと思いました。巻末になりますけど、「数学ひろば」というのがあったり、学びを振り返ろうというところで、小学校の算数をもう一回振り返るような、でも、そこは一番後ろだから、全員がやらなくても、ちょっとつまづいてしまった子が後ろを見てやったらいいのかなとか、そういうような形が配慮されているなというふうに思いました。「学び

を生かそう」というところが、ほかの教科のつながりとかがあったので、このコーナーがいいなと思ったのと、あと学校図書さんも見やすかったのですが、同じように小学校の算数が振り返られるとか、復習もできるような内容になっていたり、章ごとに大きな字で、その章で何を学ぶのかというサブタイトルがあるので、あ、これを学ぶのだなと分かってから勉強に入れるのかなという工夫が感じました。その2社で、私はまだ。

○大河内教育長

まだ決めかねていると。

○若林委員

そうです。

○大河内教育長

分かりました。そのほかございますか。

○高橋委員

まず、学校図書さんなのですが、いろいろな問題とといいますか、課題に身近なものを例に挙げて取り上げていることとか、相似形を書くについて、こんな書き方があるよみたいな、体験的なものの紹介だとか、感覚的に物事を捉えるという数学の分野でもそういった要素が必要なのかなというのを感じているのですが、そういったものが紹介されていました。

もう一つ、啓林館さんなのですが、内容で、黒板を模した枠に数式が書いてあったりとか、先生と生徒のやりとりのイラストにも黒板のグリーンがバックとして見えていたりとか、視覚的に見慣れている色をぱっと教科書でもそう使われているというふうになると、そこにやはり心理としては注目がいって、目立つような心理的なものをもしかしたらねらって、そういった形になっているのかなというふうに思いまして、私は啓林館さんの教科書は非常に見やすいですし、目の先ほど言ったとおり注目する点がぱっぱと、どこをどう探していいのかというのではなくて、視覚的にも訴えるところがあったように感じましたので、啓林館さんを推薦させていただきたいと思います。

○大河内教育長

分かりました。ほかありますか。

○福田委員

これも7社で非常に難しい選択だと思いました。私も啓林館を今回推したいと思います。ページ数で279、同じように評価の高い学校図書が311なのですね。逆に言うと、コンパクトなのですよ、啓林館というのは。確かに見ていくと、非常にすっきりとした構成になってい

ます。この教科書は、ある意味ではICTの活用を広げるということが一つ大きな特徴かなと。例えば問題の解答なんかも、この教科書の中には出てこないですね。二次元バーコードで読んでいく。補充問題も、やはり同じようにして展開されている。ですから、教科書の中にさらに深みがあるというか、その先その先を用意しているという。それから、図形を動かしたり、関数グラフを比べたりとかという、数学の中で必要な要素をやはり情報提供してくださるということです。これはほかの教科書でも同じように活用されているわけですがけれども、この数学の教科書というのが一つICTを活用したこれからの学習活動の先端的な事例になるのではないかというふうに思いました。

ただ、やはりちょっと心配しているのは、教科書の活用の中で、ICT、例えばいろいろな端末を利用してということなのですがけれども、その情報を読み込むことで、次に展開していくというときに、それがうまく利用できるかどうかというところがあるのですね。教科書の中で収まっている部分と、そうでない部分という、プラス・アルファの部分が入ってきて、そこは担保できるかどうかという問題も併せて出てきている。これは保護者向けにもいろいろなメッセージが実は書かれていて、そういう情報を利用するに当たってということで、ただし書きがあるのですね。そのことも含めて、こういう教科書です。やがてはデジタルになると思うのですがけれども、そういう移行をある意味では示唆するような教科書の編成になっているのかな。だから、うまく使っていけば、すごく深みがあると思うのですね。逆に言うと、そこが利用できなかつたら、ちょっと心配だという部分があるので、そこら辺は現場の先生方にぜひ積極的に取り組んでいただいて、子どもたちにもこういう教科書の活用、そして学習の仕方も変えていくわけで、そこら辺も課題として持っていただけたらいいのかなと。

ちょっとそういうリスクを背負いますけれども、今後の展開を考えて、啓林館の数学の教科書を推したいというふうに思いました。

○星山委員

ちょっと今の先生のお話を受けてという感じですがけれども、私はもう今、教科書も大転換期を迎えているなという気がして、今、教育界にデジタルがものすごい勢いで入ってきて、私は大きく分けてですけど、プラットフォームづくりみたいな、全ての子どもや御家族や教員が使いやすく、この教科書のコンテンツまでたどり着けるかどうかというところ、まだちょっとここが不安定かなと思いますけど、そこが整ってくると、今度は逆に中身の勝負になるのかなという、そこが今、同時にすごい勢いで進化しているのではないかなと思いました。

私も福田先生がおっしゃったように、そういう意味でちょっと未来型なのだろうなと思い

ましたけど、でもこれは各教科、全ての教科書がもうどうしても知らされていく未来かなという気がします。これから本当に教科書も大変だなと思いますけど、私はさっきも言いましたけど、ちょっと話も出ましたけど、フリースクールとか不登校の子どもたちとかも見てみると、学校に来れないけど学びたい子はたくさんいて、この子たちどうになってしまうのかなと思うと、やはりある程度自立的に学べて、ICTも活用して、つながっていくという新しい学習の在り方というの、これから考えていかないと、なかなか厳しいかな。そこだけで終わってしまうという情報のとり方ではなくて、これを媒体にしてどうやって人とつながるか、次の世界にどうやって扉が開いていくかというようなことですね。ちょっとこういうことは本当に、教科書採択という場ではありますけど、何か教える側とか教員養成している側なので、非常に相互作用的に探っていくと、なかなかどっちの方向へ行くのかなというのは難しいところではありますけど、そういう子どもたちのニーズもあるので、自立的に学べるという、そういう意味において、私も啓林館のはとても未来型だなというふうに感じました。以上です。

○大河内教育長

ありがとうございます。付け足しで御意見ございますでしょうか。

○福田委員

今出てきたように、この教科書が単に教科書の中だけで全てが収まる時代ではなくなってきたということですよね。これにプラス・アルファの世界がある。あるいはプラス・アルファの情報があるという中で、それをどう利用していくかということは、すごく大きな問題になってきます。だから、先生方も含めて、これからの教育の在り方を、この教科書を一つの出発点として考えていくような、そういう時期であることは確かですね。

それから、星山先生おっしゃったように、一人一人の学びというものを、例えばどういうふうに生かすかという中で、この教科書プラス・アルファという形の様々な媒体を利用してもらえたらいいかなというふうに思っていますし、そういう考える時期かなというふうに思いました。

○大河内教育長

ありがとうございます。それでは、社名が挙がっているのが、学校図書と啓林館だったと思うのですが、よろしいですか、その2社で。

それでは、学校図書を採択するのが良いとお考えの方、挙手をお願いします。

啓林館を採択するのが良いとお考えの方、お願いします。

それでは、啓林館が3、学校図書が1ということで、「数学」につきましては啓林館を採用することに決定いたしました。

続きまして、「理科」に移りたいと思います。中学校「理科」について、御意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

○若林委員

理科というと、やはり観察とか実験ということが主になってくるのかと思いますけど、どの会社、5社ですね、実験にも安全とかにも触れていただいているし、本当に大差ないなと思っています。啓林館さんだと写真が多くて見やすいかなというところと、何か章ごとに疑問を持って、課題を見つけて、仮説を立てて、問いかけをして、結果を予測して、その結果を考察するという流れがあって、対話的にクラス、自分だけではなくて、友達と発表してみようというようなところ、話をしたり聞くということができているかなというところと、「つながる学び」というコーナーでは、小学校で学んだことが振り返られているし、力試しの問題も多いかなと思いました。学ぶ内容を、生命、地球、物質、エネルギーという分野で力強く分けてあって、そこが写真なども見やすく、整理しやすいかなと思いましたし、あとは地層とかの勉強のところ、神奈川県各所、三浦だとか、小田原とか、南足柄とか、神奈川県立生命の星・地球博物館とかいうのが紹介されているので、子どもたちも、あ、これ知ってるとか、目が行くのかなというところの写真が有効に使えているかなと思いました。

○大河内教育長

啓林館でいいですね。

○若林委員

はい。

○大河内教育長

そのほか、ありますか。

○高橋委員

まず、東京書籍さんなのですが、その単元に、理科ですので、観察とかいろいろな気づきだとか疑問を、グラフになっていまして、今このページではこれとこれとこれが記載されているのだよ。ぺらっとめくると、その続きで、今度、これで最後のまとめだとか発見だとか疑問だとかという形で、本文にもそう書いてあるのですけれども、そういった形で、今、学びの目的は何かというのを、視覚的に確認できるような工夫がなされていて、全体のどこに位置しているのかというのが、すごいつかみやすかったなという印象を受けました。

もう一つ、啓林館さんなのですけれども、他の教科書さんも、つくりとして同じかなと思うのですが、各単元にまとめ、力試し、それから今度探究ということで、学んだものを今度どういうふうな形で発展させたり、学びを広げていくかというものが設定されていて、すごい学びが深まる工夫がなされているのかなというふうに感じます。

私としては啓林館さんを推したいというふうに思います。以上です。

○大河内教育長

東京書籍と迷っているということではなくて、啓林館ですね。

○高橋委員

そうですね。

○大河内教育長

分かりました。ほかありますか。

○福田委員

僕も東京書籍と啓林館、2つ、ほぼ同じぐらいかなというふうに思います。東京書籍も、探究の進め方を順序立てて紹介して、観察・実験の操作をステップで示したり、あるいはレポートに書く、丁寧に紹介したりということで、非常に使い勝手のいい出来上がりかなというふうに思います。それから、読み物のページが充実していて、学習内容・日常生活へのつながりが見やすいというような形で、よくできていると思います。

一方で、啓林館のほうも、やはり探究ということに関して言うと、順序立てて紹介していますし、観察・実験における目的、方法、結果、考察というのをきれいに表示した形で、子どもたちが実験に挑めるような、そういう編成になっている。それから、特徴を言うとなると、ICTの活用を重視した教科ということのをうたっていることもあって、そこら辺で少し新しさがあるのかなということです。

どちらも優劣つけがたいのですけれども、意外とコンパクトにまとまっていて、使い勝手のよさというのは、啓林館のほうにあるのかな。それはちょっとさっき触れたのですけれども、写真とかそういったものがうまく配置されていて、読みやすさというものがそこに見てとれるからかなということです。どちらとも言えないのですけれども、あえて申し上げるとしたら、啓林館のほうかなというふうに思っています。

○大河内教育長

それでは、ほかありますか。よろしいですか。

それでは、中学校「理科」については、啓林館、東京書籍のお話が出てましたけど、最終

的には啓林館を推される委員の方がほとんどでしたので、最初、啓林館から確認します。中学校「理科」、啓林館を採択するのが良いとお考えの方は挙手をお願いします。

啓林館 4、他 0。中学校の「理科」は啓林館を採択することに決定いたしました。

○福田委員

追加なのですけれども、大日本図書というのも、実は候補に挙がってはきていたのですが、それでも、検定が通ってない。今回出されたものは令和 2 年度検定だということがあって、その点では、ちょっと対象から外したほうがいいのかないかなというふうなことがあります。

○大河内教育長

続きまして「音楽（一般）」に入りたいと思います。中学校「音楽（一般）」について、何か御意見ございますでしょうか。

○星山委員

私は専門なので、両方ともよく見させていただきました。自分も教えていたものですから。教育芸術社と教育出版と、本当に迷いますね。お互いのよいところがすごく取り入れられていて、どちらでもいいなというふうに思いました。本当に分からないぐらいです。教育出版さんのいいところは、全ての子どもにすごく歌いやすい、割となじみやすい、使い勝手のいいものになっていますし、入っている曲とかはそんなに違いはないのですが、とてもいいですね。作っていらっしゃる方も専門家なので、そういうふうかなと思います。

教育芸術社さんのほうは、やはり歴史があって、使い慣れている音楽の先生も多いのかなというところもあって、譜面であるとか伝統のいろいろな、これから教えていかなければいけない範囲が広がったりというところも酌み取られているので、とてもいいなというふうに思いました。

ということで、教育出版さんも本当によかったかと、今回ののは。いつも読んでいるものですからね、今回一番、そういう意味においては本当に迷いました。迷ったのですけれども、やはり教育芸術社かなと私は思いました。以上です。

○大河内教育長

ありがとうございます。そのほか、ありますか。

○高橋委員

私も星山先生と一緒に、教育出版さんも教育芸術社さんも、どちらもいいなと。両方ともやはりポピュラーな音楽を取り入れたりとか、様々なジャンルのものを取り上げていただいているということが、共通ですけれども、あります。強いて言えばというのは、私の勝手な

イメージですけど、楽曲をイメージするような写真とか絵とかというのが使われているなど感じたのは、教育出版さんのほうかなというふうに思います。やはり音を聞いて絵を思い出したり、絵を見て音を思い出したりとかという、つながりのところも工夫されているのかなということを感じました。教育出版さんを推薦させていただきたいと思います。以上です。

○大河内教育長

そのほか、ありますか。よろしいですか。

それでは、音楽のほう、2社ですので、教育出版さんと教育芸術社さんの2つを推される御意見をいただきました。それでは、ここで、ほかにないですね。採決をしたいと思います。

まず、教育出版さんを採択するのが良いとお考えの方、挙手をお願いします。

教育芸術社を採択するのが良いとお考えの方、お願いいたします。

それでは、教育芸術社が3、教育出版が1ということで、教育芸術社の「音楽（一般）」を採択することに決定いたしました。

続いて、同じく「音楽（器楽合奏）」のほうに移りたいと思います。御意見いただきたいと思います。いかがですか。

○星山委員

これも同じなのですが、器楽はやはり得意不得意があるので、親しむという意味もあって、ふだん自分がさわらない楽器なども丁寧に説明されていたり、あと最近は本当に琴ですとか三味線ですとか、いろいろな伝統的な音楽に触れるというのは取り入れられているのですが、そういうところなんかの写真とか、いろいろな工夫ですね、身近なものに感じるような工夫、そういうこと、両社とも本当にすばらしいなと思いましたけれども、私はやはり教育芸術社のほうがいいかなと思いました。

○大河内教育長

ほかございますか。

○高橋委員

私は教育出版さんの器楽合奏を推薦したいと思います。やはり二次元コードと、そういったものの活用とか、一般と器楽で連携といいますか、つながりということも考えると、教育出版さんのほうを推薦したいなというふうに思います。以上です。

○大河内教育長

分かりました。ほかに、大丈夫ですか。

それでは、別々の社名に対する御意見をいただきましたので、挙手をとりたいと思います。

教育芸術社のほうを採択するのが良いとお考えの方、挙手をお願いします。

教育出版を採択するのが良いとお考えの方、お願いいたします。

それでは、教育芸術社が3、教育出版が1ということで、教育芸術社の「音楽（器楽合奏）」を採択することに決定いたしました。

続きまして、「美術」に移ります。中学校「美術」について、御意見をいただきたいと思っています。いかがでしょうか。

○星山委員

これ、3社あるのですが、本当に素晴らしいです。何かどれも見とれてしまうぐらい、やはりビジュアルからインスピレーションを得る科目なので、すごいなと。今の技術も素晴らしい。美術館のリーフレットを見ているみたいだなと思いました。だから、本当にどれを選ぶとも言いがたいぐらい、素晴らしいと思いましたけど、一番、何かインスピレーションになって恐縮なのですが、私は日文が見ていて見やすい、魅力的でした。以上です。

○大河内教育長

日本文教出版ですね。ほかありますか。

○高橋委員

まず、光村図書出版さんなんですが、結構身近なものを取り上げていて、資料の内容とかも豊富だなという印象を受けました。あと、日文さんもそうなのですが、ぱっと開いて、大きいサイズで見られるというところの工夫がありました。

日文さん、日本文教出版さんですけど、ただ本当に見ていて楽しかったです。ずっと見ていられるし、どんどんどん引き込まれていって、細かいところまでとか、私としては一日中見ていられるなという印象を受けました。見せ方とか、色とか、いろいろな工夫がなされているのかなというふうに感じましたので、美術としては日本文教出版さんを推薦したいと思います。

○大河内教育長

光村と日文さんでは。

○高橋委員

日文さん。

○大河内教育長

日文ということですね。ほか、よろしいですか。

それでは、2社挙がったのですけれども、1つに絞られたような形ですので、確認をさせ

ていただきます。その他の教科書会社を採択するのが良いとお考えの方、いますか。よろしいですか。

それでは、今挙がっております日本文教出版を採択するのが良いとお考えの方、挙手をお願いします。

それでは、日本文教出版が4、他社が0ということで、日本文教出版の「美術」を採択することに決定いたしました。

たくさん報告書を受けていますので、報告書の中で判断していただく形になっている部分もありますので、なかなか意見をまとめるにくい部分もあるのですけれども。次、保健体育のほうに移ります。中学校「保健体育」、何か御意見ございませんでしょうか。

○高橋委員

まず、学研さんなのですが、開いて、その見開きで各学習する内容が完結しているということと、あと、開いて右の端っこのほうなのですが、多分子どもたちが自分で自己評価するのかな、達成度を記入するバーがありまして、それを自分はどれくらいできたのかというのを多分塗ったりするということがあって、なかなか振り返りをするきっかけとしてはおもしろいなというふうに思っています。

東京書籍さんも同じように、見開き完結型で見やすく、印象としては主体的・対話的で深い学びを促すような形で、幅広い知識とか教養というのが身につくような配慮といえますか、工夫がなされているなというふうに感じました。

2社申し上げましたが、東京書籍さんを推薦したいと思います。

○大河内教育長

ほかにいかがですか。よろしいですか、なければ。高橋委員のほうからいただきましたけれども。学研と東京書籍を挙げていただきました。最終的には東京書籍を推されるということです。ほか意見がないですので、東京書籍を採択するのが良いとお考えの方、挙手をお願いします。

東京書籍が4、他社0ということで、東京書籍を「保健体育」の教科書として採択することを決定いたしました。

続きまして、「技術・家庭（技術分野）」に移りたいと思います。御意見のほうをお伺いします。いかがでしょうか。

○福田委員

技術ですけれども、3社あるうちで、東京書籍とそれから教育図書をまず候補に挙げまし

た。東京書籍のほうは、非常に問題解決事例が豊富で、評価・改善のページも用意されておりまして、非常に教科書としてうまくできているかなと。それから、他教科との関連にも十分配慮しているし、技術の見方、考え方というのがうまくコラムとして組み込まれている。それから、教科書の使い方が非常に分かりやすいというような特徴があったと思います。

この技術の教科書って、久しぶりに見たのですけれども、ものすごく魅力的なのですね。この教科の、ある意味では意義というのがよく分かって、逆に言うと私たちは技術を学んでなかった。現代の流れというのをうまくつかんでいないという、時代遅れの世代であることを非常に感じました。だから、今の子どもたちにとって、本当にこの技術というのがどれほど大事なことなのかという、テクノロジーですね、ということを教えてくれるような、そういうつくりになっているということで、見直しました。

それから、教育図書もよくできていまして、その中で取り上げられる題材に関する写真、イラストが非常に見やすく配置されていまして、実習活動の時間を十分に確保している。問題解決の流れが分かりやすい。それから、この特徴は、実際の実習とかその他に関わる安全指導ということに関して、十分なページを割いているということで、これもちょっと通常の教科書とは違ったつくりになっているかなということで、ある意味では使い勝手を考えていったときに、示唆的な教科書になるのかな。すごくサービス精神旺盛な教科書で、つくりとしては非常によくできているかなと思います。

この2つを比べて、今の段階では東京書籍のほうが少しいいかなというふうに判断しています。

○大河内教育長

そのほかありますか。

○高橋委員

私は学校図書についてですが、本当に今の技術、いろいろな技術が、テクノロジーがあると思うのですけれども、それを結構写真とかいろいろな事例、身近なものを事例に挙げたりとかして、分かりやすく、どちらとも、東京書籍さんもそうなのですから、学校図書さんのほうに、教科書に書いてある内容に補充して、別冊でスキルアシストというものが、教科書よりもちょっと小さめの、スキルアシストなので、いろいろな方法をそこにびたっと集約して、分かりやすく掲載されているというのが、他の教科書にはない部分かなというふうに思います。教科を離れても、それがまた別のところで生きたりとかということで、いろいろな使い勝手といいますか、教科を超えてそういったものが活用できるようなものになって

いるのではないのかなというふうに感じました。私としては教育図書さんを推薦したいと思っています。以上です。

○大河内教育長

そのほかありますか。よろしいですか。

それでは、東京書籍と学校図書ですか、教育図書、失礼しました。東京書籍と教育図書の2社の御意見をいただきましたけれども、ほかないですね。では、この東京書籍と教育図書の2つで挙手をお願いしたいと思います。

まず、教育図書を採択するのが良いとお考えの方、挙手をお願いします。

東京書籍を採択するのが良いとお考えの方、お願いします。

それでは、東京書籍が3、教育図書が1ということで、東京書籍の「技術・家庭（技術分野）」を採択することに決定しました。

次へいきます。「技術・家庭（家庭分野）」、御意見いただきたいのですが。ありますか。

○若林委員

家庭科ということで、家族や家庭と子どもの成長、衣食住の記述や消費生活を環境とかについて学ぶという教科として見ましたけれども、3社とも本当に大きな差がなくて、違いとして、目次をちょっと見たときに、東京書籍と開隆堂は衣食住の単元を衣、食、住と一つ分けているところがおもしろいなと思ったところです。東京書籍は、まず表紙をめくると、「共に生きる」というメッセージが温かいなというところで、それで始まりまして、1年間の学ぶ目標をイラストをバックに分かりやすく示していましたので、勉強しやすいかなと思いました。

私が乳幼児に関わってきていたので、家族とか家庭生活というところをちょっと中心に見させていただいたのですけれども、幼児の世界観をね、世界を感じてみようという資料に、写真で実物大の赤ちゃんの小さな靴だとか、それが実物大で写真にぱっと載っていたりするのは、すごくインパクトがあって、目で見てもすぐ頭に入ってくるという、そうだった、そうだったと思う子もいらっしゃるでしょうし、小さいうちはすごく配慮が必要なのだよということを、そこを載せているので、そういったことを知ること、自分自身も赤ちゃんの頃から育ってきた中に、家族や周りの人に助けられて、一緒に、共に成長してきたのだなということに気づくというところでは、命の大切さとか、これからの未来へつながることなのだなと、いつもここ楽しんで見ているのですけれども、どちらも開隆堂さんも同じようにありました。

ただ、写真とか文章とかのバランスが東京書籍さんはいいのだなと思ったのと、あとは今度、中学校で逗子でも、職業体験とかサマースクールとかがあって、小さい子とふれ合うことがありますので、そういう様子が写真とやっぱり注意点とかも詳しく載せてあったのと、プロの働いている人に、保育士とかね、聞くコーナーなどを載せてありまして、載っている方が「あなたはみんなの宝物なのだ」というコメントがすごく心に残って、東京書籍さんがよかったなと思いました。

本当に差がなくて、開隆堂さんは調理実習があるのですけれども、Q&Aとして、科学的な分析、火が強かったらこげるではないけれども、科学的な疑問と答えが載っていて、そういう根拠もおもしろいなと思ったので、そこもひかれたのですけれども、全体を見て東京書籍さんがいいかなというふうにはちょっと思いました。

○大河内教育長

ほか、いかがですか。

○高橋委員

私は開隆堂さんを推薦したいと思います。見開きで完結なのですが、右上だったかな、どの分野とつながっているのです、どの教科とのつながりがあるのですというのが明示されていて、家庭分野ということですから、幅広い教科だと思うのですけれども、そういったものの明示で、逆に学びが広がるきっかけをそういった形で広げていっていいと思いますし、今度逆にそっちの教科に行った場合に、どう家庭分野に返ってくるのかというようなところのきっかけづくりを教科書の中で、そういった学びの広がりを助けるきっかけづくりの工夫が見られまして、そういった意味で開隆堂さんを推薦したいと思います。以上です。

○大河内教育長

その他の会社を推される方、おられますか。では、挙手をお願いいたします。

東京書籍と開隆堂の社名が挙がっておりますので、まず開隆堂さんのほうから、開隆堂さんを採用するのが良いとお考えの方、挙手をお願いします。

東京書籍を採用するのが良いとお考えの方、お願いいたします。

それでは、東京書籍が3、開隆堂が1ということで、東京書籍の「技術・家庭（家庭分野）」を採用することに決定いたしました。

続いて「外国語」に入ります。御意見をいただきたいのですが、いかがでしょうか。

○若林委員

6社見させていただきました。日本人が、ニュースでも英会話、英語を話す力って、すご

く比べると日本は低いというのをこの間もやっていたのですけれども、今、子どもたちが学んで、世界を見たときに、しゃべれるということがすごく大切なのだろうなと思ったときに、光村図書さんが見開きに、ニュースを見た後でびっくりしたのですけれども、世界の人口80億、7,000以上の言語がある中で、ウェブサイト上で使われているのは60%が英語だよ、だけど日本人の英語力は低いよということが問題提起しているところが、ちょっと今の問題になっているなというように思いました。

全体的に使いやすいかなと思いますし、先ほどからQRコードの活用というのが出ていますけれども、その辺りもできていますし、予備教材も充実していて、友達とやりとりするようになっていたり、単調にならないようにしているとか、キーワードとか絵をヒントに英文をつくって話すとか、本当にどこの社も同じように、本当にいいと思うのですけれども、その辺りがしゃべれるということを工夫しているのかなというようなことがあります。「Let's be Friend」で、小学校の学びをつなげるという、接続するような、復習のようなところもありましたので、私は光村さんがいいなと思いました。

○大河内教育長

そのほか、いかがですか。

○高橋委員

私は三省堂さんを推薦したいと思います。多分、1年生の教科書なのですが、小学校からの英語という教科がありますので、今度中学校1年生の授業で、内容的にちょっとかぶっている部分もあると思いますし、1年生の教科書の前半は文字がちょっと大きめに書いてあって、学習や学年が進むにつれて文字もちょっと小さくなって、情報量も増えていくという、このフェードイン、フェードアウトじゃなくて、小学校から中学校に移行するのにスムーズな形で、見た目にもそういった形で工夫がなされているのかなというふうに感じましたので、三省堂さんを推薦したいと思います。以上です。

○大河内教育長

三省堂ですね。ほか、いかがですか。

○福田委員

すごく迷っていて、どの会社の教科書を取り上げても、みんな魅力的なのですね。一体どれを使えばいいのかなんていうのは、なかなか判断つかないのが実態だと思います。

その中で、教育出版は水原一平の記事が差し替えたとかというのがあって、それだけは笑いましたけれども、それ以外は本当によくできている。結局、現場の先生方がこの教科書を

どう生かして、これに関わってくるような、そういう状況なのかなというふうにはまず思いました。

実際、中身を見ていく中で、子どもたちにとって比較的身近な出来事をまとめたのが光村の外国語かなということで、ほぼ全てのレッスンがつながっているというような形で、あるテーマのもとで、まとまりをもっている。それから、各ユニットごとに振り返り、それから目標到達度のチェックができるとか、それから、全体に4機能5領域をバランスよく整えているなという形で、各ユニット単位でうまく教材が構成されているということ。それから、主教材、あるいは小教材の形で、これも教科書を編成していく中で、構成要素というのをうまくまとめ上げる形ができるかどうかという中で、そこら辺はそつなくまとめているのが光村だったかなというふうに思っていますので、今の段階でどれをとっても別に絶対的なものというのではないかと思いますけれども、取りあえず身近なテーマで、子どもたちが取り組んでくれるような教科書ではないかと思って、一応光村を今回は推したいというふうに思っています。

○大河内教育長

分かりました。そのほか、よろしいですか。

それでは、三省堂と光村図書出版、2社の名前が挙がっています。そのほか推す社名ありますか。ないですね。それでは、光村図書、三省堂で挙手をお願いしたいと思います。

それでは、光村図書を採択するのが良いとお考えの方、挙手をお願いします。

三省堂を採択するのが良いとお考えの方、お願いいたします。

それでは、光村図書が3、三省堂が1ということで、光村図書の「外国語」を採択することに決定いたしました。

それでは、最後になります。中学校「道徳」に入りたいと思います。御意見をお伺いしたいと思います。いかがでしょうか。

○若林委員

道徳7社ありまして、どの社もいじめとか命の大切さというものが読み物として豊富にあるのではないかなと思ったのと、道徳というと保護者の方もどんな教科書になるのかしらと気にされるのかなというところもあるので、いろいろ7社ともよく見てみました。7社もあるのに、題材が、読み物が本当にかぶっていないのだなと思って、それだけ日常の身近なところにいろいろな考えるべきことがあるのだなというのを感じました。道徳という、子どもたちがどんなことを思うのが大事で、それで答えは1つではないし、お友達の意見も聞い

て、ああ、そうなのだから、でもこう思うよとかという、そこで話が始まったり、受け入れたりして、そういうやりとりがどんどん進んでいくと、認め合うというか、そういった形ができてくるのかなと思いました。

本当に光村さんも東京書籍さんもいいのですけれども、光村さんの巻頭の道徳の学習を始めようという学ぶ方法や見通しが、イラストとか色使いとかが読みやすくまとまっていて、ぱっと見て1年間こうやるのだなというのが分かるのかなというふうに思いましたし、「考えよう」というコーナーがありまして、光村は見方を変えてとか、さらにつなげようとか、さらにやってみようということで、ペアになって発表したり、ロールプレイングみたいな感じも出ていたりとかということと、東京書籍もそうなのですけれども、小学校のときに使った題材で、「橋の上のおおかみ」とか、そういったことをまた、でも中学になって見たときにどう感じたのかなというようなことを振り返られるというところで、それはすごくいいなと思いました。

ただ、学研さんでいいなと思ったのは、単元のタイトルに公平・平等とか、そういったことがないのですね。だから、生徒さんが見たときに、ここの単元は公平とか平等を学ぶのだなと分かるわけではなくて、自由度が高いのかなというのが学研さんのいいところかなというふうには思いました。

光村さんを私は推したいなと思います。

○大河内教育長

そのほか、いかがですか。

○星山委員

今いろいろな教科の教科書を見せていただいて、ほぼすばらしいなと思ったのですが、私、道徳だけは全然まだまだではないかなと思いました。全部読ませていただきましたけど、現代社会の子どもたちが抱えている心の闇と対応してないように思います。私、特別支援とか不登校が専門なので、あと学生からいろいろなことを聞くので、例えばヤングケアラーの話、スクールカーストの話、いじめはもちろん、それからSNSの中で起こっていること、それから詐欺に巻き込まれていくところとか、何かもっと遠い世界の話ではなくて、身近な学級にある友達の話とかがもっと題材にあればいいのにと、ずっと思っていて、以前に比べて、答えはこうあって、こういうのが正しいという誘導はすごくなくなったと思うのですね。その意味では、どの出版社の方もすごく変わったなと思うのですが、でも題材に関しては私はまだ全然対応してないのになと、すごく思いますね。やはり中学生、高校生、大学生と

話していると、心の闇、すごく深くて、不登校がどんどん増えているし、命を守れない子もいるのに、道徳という教科でどこまでカバーできるかはさておき、もっと何かみんな、本当は語りたいこととか考えたいことがいっぱいあるのではないかなと思うので、それを引き出してくれるようなものがもう少しあったらいいのになというの、全体を通して思いましたね。

それから、よく編集委員会の著書と書いてあるのも、私はすごいいつも疑問を感じてますね。何か書き下ろしして…私、教育出版、すごく今回いいと思ったのですが、書き下ろしてどなたかこの人に書いてほしいというようなものを書いてもらうとかでも、すごいいいかなと思うのですが、今まであるような話を、名のないグループで考えたという文章で載せられると、子どもたちの心に本当に響くのかなと。特に中学生とかって、ものすごい闇深いですよ。一緒に話していると。それで、道徳の授業とかも先生の答えが分からないって、つぶやきが昔聞こえていたくらい、何か答え当てゲームしているわけではないと思うのですよね、この教科って。だから、私はもっといろいろなことを考えたいし、語りたいのではないかなと、すごく思っているのですよね。そこを引き出してくださるような教科書を作ってくださいなというのを切実に思いましたね。

ということで、ちょっとお願いみたいになってしまったのですが、子どもたち、もっと自分のことを知りたがっているし、家族のことも知りたがっているし、語り合っていると思うのですよね。遠い世界のことや、スポーツ選手のいろいろな苦労話で、こうなりましたって、それは題材としてすてきだけど、でも身近に、本当に悩んでいることなのかなと、私は疑問に感じるし、もちろん国の出してくるいろいろな指針はあるけど、コロナのことだって、今あることだって、全然対応が遅れているので、そういうことに関しては自由度の高いような考える教材というのは、これからどんどん出てくるといいなというのを思いましたね。

ということで、私は教育出版、すごくよかったなと思っているので、今回はすごいいいなというふうに思いました。以上です。

○大河内教育長

そのほか、ありますか。

○高橋委員

先ほど若林委員からもお話ありましたが、道徳に、これが答えですというものはやはりないですし、星山委員のお話にもありましたとおり、私も教科書の中で、教科書なのでこういうことを伝えたいという仕組みになっている、どうしてもなるので、なのですが、それ以

外のところでもっとリアルなものが、多分子どもたちの周りではうごめいていると思うのですね。こういったときに、どう考えたらいいのかなとか、助言的なというか、それが教科書の役目かどうかは分からないのですけれども、私、東京書籍さんを推薦したいなと思うのですが、子どもたちにいろいろな問いかけとか、それからデジタルコンテンツで動画だとか、それから読み上げ機能とかというところのコンテンツが豊富で、そういった子どもたちに働きかける材料が1つでも多くあればいいのかなというふうに思います。そういった観点から見ると、東京書籍さんを推薦させていただければなというふうに思います。以上です。

○大河内教育長

ほか、ありますか。

○福田委員

僕も非常に迷っているのですけれども、皆さんおっしゃっているように、考える道德というのが目指すところであって、答えを探すわけではないのですね。そのために、いろいろな課題を自分の問題としてどう捉える、あるいは自分自身の考えや感情をどう説明できるかとか、いろいろな活動が1つの題材から広がっていくような、そういう教科書になってくれればいいなと。ですから、教材の選定の仕方というのは非常に難しいと同時に、それをどう生かすかということも現場サイドに求められている、そういう教科特性かなというふうに思います。ですから、どれをとったから絶対的だという、教科書で決まるわけではなくて、それをどう生かすかというところが最大のポイントになるかなと。

そういう中で、比較的先生方にとって使い勝手がいい、あるいは生徒にとって使い勝手がよく構成されているのが光村ではないかなというふうにちょっと思っています。そういう意味で、あえて選ぶとしたら光村を推したいというふうに思います。

それから、先ほど出ているように、こういう道德の教科用図書、教科書は保護者へのメッセージであるのですね。これ、道德だけではなくて、いろいろな教科であるのですけれども、こういう保護者へのメッセージも含めて、道德に関する考え方というか、取り組み方というのを、これからぜひ考えていけたらいいのかなというふうに思っています。取りあえず今のところ私は光村を推したいと思います。

○大河内教育長

それでは、全員から御意見いただきまして、挙がってきた社名が光村、教育出版、東京書籍と、この3社だと思いますけれども、間違いはないですね。それでは、この3社から1つ選んで挙手をお願いしたいと思います。

まず初めに、東京書籍を採択するのが良いとお考えの方、お願いいたします。

続いて、教育出版を採択するのが良いとお考えの方、お願いいたします。

最後になりましたが、光村図書を採択するのが良いとお考えの方、お願いいたします。

それでは、光村図書が2、東京書籍と教育出版がそれぞれ1ということで、光村図書を「道徳」の教科書ということで採択することを決定いたしました。

附帯意見として何かございますか。よろしいですか。

それでは、以上をもちまして中学校の教科用図書採択を終わります。

続いて、事務局にお尋ねいたします。令和7年小学校使用教科書について、小学校現場から何か指摘がありましたか。また、令和7年度特別支援学級に学ぶ児童・生徒の使用する教科用図書のうち、検定教科用図書以外に一般図書の使用の希望が小・中学校からあったでしょうか。

○出居学校教育課担当課長

小学校使用教科書は継続使用の年となっております。学校から特に指摘はございません。

また、市内の5小学校から特別支援学級について、学校教育法附則9条に関わる一般図書の希望はございません。以上です。

○大河内教育長

ありがとうございました。それでは、令和7年度市内小学校使用教科書及び小学校特別支援学級では、これまでの教科書を継続使用することによろしいでしょうか。

(全員異議なし)

異議がないということですので、それでは小学校の継続使用を決定いたします。

以上をもちまして「議案第17号令和7年度使用小・中学校教科用図書の採択について」の審議を終了いたします。長時間にわたり、審議ありがとうございました。

◎日程第4「その他」

○大河内教育長

続いて、日程第4「その他」を議題といたします。

その他、議事として何かありますか。

○雲林教育部次長

本日予定している案件は以上です。

○大河内教育長

それでは、各委員の皆様方からその他議事として何かございますか。

○福田委員

もう終わったのですけれども、教科書採択に関して少し感想を述べさせていただきたいと思うのですけれども。この教科書採択に関して、多くの人の手によってここに至ったということで、調査委員会をはじめとして意見をお出しいただいた方に、その協力に対してお礼を申し上げたいと思います。今回、まずお願いしたことは、小・中学校、ここでは中学校ですね、中学校の先生方に教科書をまず見ていただきたいということ。そして意見を出していただきたい。それから、保護者の方にもぜひ見ていただいて、意見をいただきたい。今、中学校の教科書がどのように変わっていくのかということを現場サイド、あるいは保護者の方に知っていただいて、そしていろいろな意見を出していただきたいというふうに強く思っていましたし、実際にそういう形で遂行していったことを非常にうれしく思っています。アンケートというのを今回出てきて、読ませていただいて、やはりそれぞれ現場の声をよく聞いてくださいとか、それから意外と保護者が教科書を見ていないということで、一方で保護者に対する呼びかけというのが教科書の中にあるのですよね。ですから、先ほど出てきたように道徳もそうですけれども、数学もそうなのですよ。保護者とともに学んでいくということも求められている時代ではあるということを強く感じました。

それからもう一つは、途中で述べましたけれども、教科書が変わってきている。特に二次元バーコードを使って様々な情報を外に呼びにいくとか、呼び出していく中で、当然費用もかかる。それから、スキルも違うわけですね。よかれと思っていろいろな付加的な情報が入ってくる中で、本当に生徒たちが公平に、そしてみんなと同じように、この教科書を利用できるかどうかということに関して、やはりいろいろな条件整備が求められてくるのかな。あるいは指導をプラス・アルファしていかなければ、この教科書を使いこなせないような状況になってくるのではないか。だから、そこら辺りを教科書採択で終わるわけではなくて、これから実はこの教科書を使ってどういうふうに教育をしていくかという中で考えなければいけない課題も与えられてきたのかなということを強く思います。これは現場サイドの先生方にもお願いして、教科書をうまく利用するような、そういう環境を整備していったほしいな。そうでないと生きてこない。やがてデジタル教科書という形に変わっていく一つの時代に入った中で、試行的な試みもこれからぜひしていったほしいなということを思いました。

ぱっと見て、ものすごく立派なのですね、教科書って。さっき技術の話をしましたけれども、あれは一家に1冊あったほうがいいぐらい、本当によくできているのですよね。それを教

科書として利用してもらうわけですから、逆に生徒たちも一生懸命学んでもらいたいという
感じを強く持った次第です。ちょっと感想で申し上げました。

○大河内教育長

私もしゃべれなかったのも、ちょっと検討委員会の中での感想なのですが。オブザーバー
として参加されていた保護者の方が、一連の先生方の調査報告書、それから中での意見を聞
きながら、子どもたちが手にする教科書一つ一つにこれだけ手間暇かけて御意見をいただい
て、そういう時間があるのだなということに感激して、ぜひPTAの中でも教科書の在り方
について大事にして語っていきたいという話がありました。

あともう一つ印象に残ったのは、教科名を言ってしまうと名前が分かってしまうのですけ
れども、先生方、本当に時間がない中で丁寧に調べてきているなということを感じた。プラ
ス、ある教科の先生が、この教科書改訂をする中で、新しい教科書を見るチャンスをいただ
いて、自分の指導にも生かせることだし、本当に各教科のすばらしさを調査することによっ
て、そういうチャンスをいただいたことに感謝するということを言われた先生方もいらっし
ゃったのですね。ほとんどの先生方、時間のない中で本当に多分夜遅くまで調査をして、当
日来られたと思うのですが、その姿を見て、また保護者も感動したと。私も本当に感動して、
この採択に至るまでが中途半端な形ではなくて、本当にいろいろな、先ほど福田委員からあ
りましたけれども、いろいろな方々の思いが現れて、それを今日は我々が酌んで結論を出し
たということでしたので、長時間ありがとうございました。感謝申し上げます。

そのほか。

○星山委員

私、いつも大学生で教員になる子たちを指導している立場で25年なのですが、最近大学
生も学び方が全く変わってきていて、ほとんどデジタルコンテンツを自分で探してきて見て
いるのですね。私はある意味、教科書が危機的な時代を迎えたなと思っていて、もしこれが
やがてデジタルになると、子どもたちにとって本当の教科書と偽物の教科書って分かるのだ
ろうかと思ったり、あと学生も誰かが勉強している動画を見て、それを見て学んでいるとい
う不思議な時代になって、自分が経験してないので追いついてはいないのですが。だから
こそ、すごく質の高いコンテンツと、ここまで積み上げてきたものが、今、ほかのいろい
ろなフェアとか、教育フェアとか行くと、教科書会社以外のいろいろな企業がダーッと参入し
てきているような気がするので、すごい時代なのだなと思いましたけど、私は今、教育長さ
んもおっしゃったように、これだけ手間暇かけて、長い年月の蓄積で守られてきたこの中身

ですよね。これはこれでやはり大事にしていかないと、全部これがオープンになって、そこそいろいろなA Iが入ってきて、どういうふうに統制されていくのかなというのは、ちょっと今、見えない時代なのかなという気もしますので、本当にいろいろなところで連携しながら、子どもたちの教育の質を守っていけたらいいなというふうに思いました。以上です。

○大河内教育長

ありがとうございます。そのほかございますか。よろしいですか。

ないようですので、以上でその他についてを終わります。

次回の定例会ですが、9月25日（水曜日）午後5時30分からを予定しておりますが、決定につきましては改めて各委員に御通知申し上げます。

以上で本日の日程は全て終了いたしました。これをもちまして教育委員会8月定例会を終了いたします。ありがとうございました。